

第4章 3

# 様々な自然災害に備える

近年、せまい範囲で起きた大雨や激しい突風による被害のニュースをよく耳にする。大雨や激しい突風などに関する知識を深め、気象情報を正しく理解して、もしものときにも落ち着いた行動がとれるように心掛けよう。



関東・東北豪雨で浸水した地域

## 1 「特別警報」「警報」「注意報」

「注意報」とは、雨や風などの気象要素によって災害が起こるおそれあるときに発表され、「警報」とは、注意報を超えて重大な災害が起こるおそれがある時に発表される予報である。これらに加え、平成25年からは、数十年に一度の大雨、数十年に一度の強さの台風や温帯低気圧による大雨や暴風など、警報の発表基準をはるかに超える現象が予想される場合に発表される「特別警報」が設定された。平成25年に発表された仙台管区気象台の発表基準を見てみよう。

主な警報・注意報の発表基準一覧

主な警報・注意報の発表基準 仙台市(抜粋)		仙台市西部		仙台市東部		
特別警報		数十年に一度の大雨、数十年に一度の強さの台風や温帯低気圧による大雨や暴風など、警報の発表基準をはるかに超える現象が予想される場合				
記録的短時間大雨情報		1時間雨量 100mm				
警報	大雨	雨量基準	平地 1時間雨量 45mm 平地以外 1時間雨量 50mm	平地 3時間雨量 80mm 平地以外 1時間雨量 45mm	平地 3時間雨量 80mm 平地以外 1時間雨量 45mm	
	洪水	雨量基準	平地 1時間雨量 45mm 平地以外 1時間雨量 50mm	平地 3時間雨量 80mm 平地以外 1時間雨量 45mm	平地 3時間雨量 80mm 平地以外 1時間雨量 45mm	
	暴風	平均風速	18m/s		陸上 18m/s 海上 18m/s	
	暴風雪	平均風速	18m/s 雪を伴う		陸上 18m/s 雪を伴う 海上 18m/s 雪を伴う	
	大雪	降雪の深さ	平地 12時間降雪の深さ 25cm 山沿い 12時間降雪の深さ 30cm	12時間降雪の深さ 20cm		
	波浪	有義波高	6.0m			
注意報	高潮	潮位	1.6m			
	大雨	雨量基準	平地 1時間雨量 30mm 平地以外 1時間雨量 40mm	平地 3時間雨量 50mm 平地以外 1時間雨量 30mm	平地 3時間雨量 50mm 平地以外 1時間雨量 30mm	
	洪水	雨量基準	平地 1時間雨量 30mm 平地以外 1時間雨量 40mm	平地 3時間雨量 50mm 平地以外 1時間雨量 30mm	平地 3時間雨量 50mm 平地以外 1時間雨量 30mm	
	強風	平均風速	13m/s		陸上 13m/s 海上 13m/s	
	風雪	平均風速	13m/s 雪を伴う		陸上 13m/s 雪を伴う 海上 13m/s 雪を伴う	
	大雪	降雪の深さ	平地 12時間降雪の深さ 15cm 山沿い 12時間降雪の深さ 20cm	12時間降雪の深さ 10cm		

平成25年8月現在 発表官署 仙台管区気象台

注意報や警報は、市町村単位で発表される。天気は地域や地形によって変化するため、注意報や警報が出される基準の値もその地域の気象の特性、災害の特性、地理的な特性によって細かく定められている。災害の危険から身を守るためには、自分が住む地域の土砂災害警戒区域等を事前に調べたり、市町村から発表される避難準備・避難勧告・避難指示などの情報を、随時確認したりすることが重要である。

## 2 大雨・落雷・竜巻

発達した積乱雲の下では、急な大雨や雷、竜巻などの激しい突風が発生する。積乱雲に伴う大雨は短時間に集中して降るため、たとえ総雨量が少なくても、周囲からの水が一気に集まる川や低地、建物の地下などでは大きな被害につながる危険がある。

2015(平成27)年9月の関東・東北豪雨のように大雨による被害も増えている。このような災害から身を守るためには、天気の状態により、どのような場所で事故や災害が起きやすいかをイメージすること、気象情報を正しく理解する知識が必要である。発達した積乱雲が接近する兆しを感じたら、危険な場所から離れて頑丈な建物内へ移動するなど、身の安全を図ることが大切である。



大雨で崩壊した道路

大雨	落雷	竜巻
<p>広域豪雨 集中豪雨 ゲリラ豪雨</p> <p>危険を回避するには…</p> <p>雨が降り始め、空や川に異変を感じたらすぐに水辺から離れる！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上流に降った雨で、急に増水することがある。</li> <li>ダムの放流サイレン音にも注意する。</li> </ul> <p>浸水した場所に注意！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>側溝やマンホールなどが見えない場所がある。とくに、地下通路や水が流れ込む低地の通行には注意する。</li> <li>すでに浸水が始まった夜間の市街地は危険。場合によっては2階以上に避難する。</li> </ul>	<p>空が暗くなる 雷鳴、いなびかり</p> <p>雷から身を守るには…</p> <p>雷が聞こえたらすぐに避難！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいて来るため。</li> <li>屋外にいる人は安全な場所へ移動する。</li> </ul> <p>建物の中や自動車へ避難！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建物の中や自動車などへ避難する。</li> <li>★雨宿りのために木の下に入るのは危険！！</li> </ul> <p>木や電柱から4m以上離れる！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>側撃雷の恐れがあるため木の側は危険。</li> <li>近くに避難場所がないときは、姿勢を低くする。</li> </ul>	<p>真っ黒い雲、大粒の雨や雷 雷、漏斗状の雲 飛散物、轟音</p> <p>竜巻から身を守るには…</p> <p>頑丈な建物の中へ避難！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難時には瓦などの飛散物に注意する。</li> <li>頑丈な建物がなければ、くぼ地に身を伏せ、両手で頭と首を守る。</li> <li>★プレハブなど仮設建築物への避難は危険！！</li> </ul> <p>屋内でも窓や壁から離れる！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家の中心に近い窓のない部屋へ移動し、部屋の隅・ドア・外壁から離れる。</li> <li>窓や雨戸を開け、カーテンを引く。</li> <li>頑丈な机などの下に入り、両手で頭と首を守る。</li> </ul>

## 3 火山活動

気象庁では、重大な被害を及ぼす噴火の発生、あるいは噴火すると予想された場合に、警戒する範囲を明示して噴火警報(噴火警報レベル1~5)を発表する。警報が発表された場合は、警戒する範囲に近寄らないことが重要である。また、警報が発表されていなくても登山などで入山する場合は活火山であることに留意し、異常と思われる現象を確認したら下山を判断することも必要である。

火山噴火から身を守るために…

異常と思われる現象の例

目	煙が見える(噴煙)
耳	地鳴りが聞こえる(地下からの鳴動)
鼻	においがする火山ガス

持参した方がよいもの

- 防塵マスク・防災ヘルメット・防塵ゴーグルなど
- ★避難小屋やシェルターなど、外気をできるだけ遮ることができる場所に避難する。